

K A K E G A W A
かけがわ 第22号
市議会
だより

平成21年8月1日
編集/発行 掛川市議会
静岡県掛川市長谷一丁目1番地の1
☎0537(21)1160

<http://www.city.kakegawa.shizuoka.jp>



サーフィンのようす:遠州灘(国安海岸)にて

おもな内容 CONTENTS

● 6月定例会の概要	2 ページ
● 会派の紹介	3 ページ
● 一般質問	4 ページ
● 市内の現地を視察	9 ページ
● 特別委員会の設置	11 ページ
● 傍聴席/9月定例会の予定	12 ページ

6月 定例会

6月30日に開催された企業会計決算特別委員会において、平成20年度病院・水道事業会計とも慎重に審査が行われ、7月7日の本会議において認定されました。

水道料金の見直しの影響は？ 景気後退による企業の使用量の減少は？

水道事業会計決算委員長報告(抜粋)

問 水道料金の見直し、企業活動の後退及び各家庭の節水意識の高揚などが使用量にどのように影響したか。

答 景気後退と工業用水への転換で企業の使用量が減少している。家庭分では、下水道の料金も合わせ徴収されるため、家庭によってはかなりの負担となり、節水意識が高まった。

問 新規借入の企業債の利率が上がっているが、金利と償還期間の関係は。今後の繰り上げ償還の予定は。

答 企業債の利率はその時の金利相場と償還期間で決まり長いと利率は高くなる。繰上償還については、19年度から高い利率のもの18件、12億2,900万円を実施する予定である。これによって利率2.25と想定すると、2億1,600万円が軽減される見込みである。

問 累計未収金が1億2,600万円あるが件数は何件か。今後、滞納を増やさない対応策は。

答 20年度末の未収件数は9,240件、金額は6,775万円、収納率は約98%、収納率の推移は若干悪くなっている。今年度から2回滞納で給水停止措置を行い収納率の向上を図る。

私たちの地域医療は 守れるか？

病院事業会計決算委員長報告(抜粋)

問 紹介率および患者の動向は。

答 紹介率は18年度約35%、19年度約41%、20年度約44%まで向上した。紹介されるにふさわしい医療を提供していくことが大切と考えている。また、19年度の中東遠地域患者動向調査によれば、掛川市民の掛川市立総合病院への受診率は約80%で、袋井市民は約67%、磐田市民は約95%が地元の市立病院に受診している。

問 慢性的な医師不足だが、市立総合病院にとって適切な医師数は。病院が黒字になる方策は何か。

答 当院の病床数は450床で、医師数は53人であるが、病床数が400～500床程度の病院であれば、医師数は80人程度が適切と考えている。また、黒字経営の病院は、高度医療を中心としている。

問 統合する24年度末までの現病院の施設維持管理費、減価償却費、累積欠損額は。

答 維持管理費は1年間5,000万円程度、減価償却費は累計で3億8,000万円程度、累積欠損額は3億円程を見込んでいる。なお、累積欠損額には実際の支出を伴わない減価償却費等が含まれているため、経営改革プランどおりに収支が推移した場合、閉院する際に負担すべき額は31億円程度になると見込んでいる。

6月定例会における議案の審議結果一覧

【予算】	○平成21年度掛川市一般会計補正予算(第1号)	全会一致認定
【決算】	○平成20年度掛川市病院事業会計決算の認定	賛成多数認定
	○平成20年度掛川市水道事業会計決算の認定	賛成多数認定
【条例】	○掛川市地区計画の区域内における建築物の制限に関する条例の制定	全会一致可決
	○掛川市公民館条例の一部改正	全会一致可決
	○掛川市学校給食共同調理場に関する条例の一部改正	全会一致可決
【一般】	○掛川市・袋井市新病院建設事務組合の設置	賛成多数可決
	○北中学校屋内運動場建築工事請負契約の締結	全会一致可決
	○三笠幼稚園建築工事請負契約の締結	賛成多数可決
	○22世紀の丘公園周りの里等建設工事委託契約の締結	賛成多数可決
	○掛川市道路線の廃止	全会一致可決
	○掛川市道路線の認定	全会一致可決
【報告】	○平成20年度掛川市一般会計繰越明許費の報告	全会一致受理
	○平成20年度掛川市公共下水道事業特別会計繰越明許費の報告	全会一致受理
	○平成20年度掛川市農業集落排水事業特別会計繰越明許費の報告	全会一致受理
	○平成20年度掛川市水道事業会計建設改良費繰越しの報告	全会一致受理
	○掛川市病院事業会計資金不足比率の報告	全会一致受理
	○掛川市水道事業会計資金不足比率の報告	全会一致受理

6月定例会の経過

6月

16日

本会議

平成二十年度企業会計決算、平成二十一年度一般会計補正予算等各議案の市長提案理由説明、監査委員の決算審査説明

24日

本会議 一般質問

25日

本会議 一般質問

29日

本会議

議案質疑、一部採決。議案常任委員会付託。企業会計決算特別委員会設置、付託。

常任委員会 付託議案審査

30日

企業会計決算特別委員会 付託議案審査

付託議案審査

7月

7日

本会議

決算特別委員会、常任委員会委員長報告、討論、採決。

会派とは？

議会において政治上の主義、理念、政策を共有する議員が集まった集団のことです。それぞれの議会の議長に会派結成届を提出している団体のことを言います。

掛川市議会では？

掛川市議会会派構成表

会派名	人数	代表者	氏名	
創世会	8人	鳥井 昌彦	鳥井 昌彦	鈴木 久男
			加藤 一司	大石與志登
			佐藤 博俊	山崎 恒男
			草賀 章吉	糸原 通泰
誠和会	6人	豊田 勝義	高木 敏男	豊田 勝義
			竹嶋 善彦	山崎 恵司
			大庭 博雄	鈴木 正治
新政会	4人	内藤 澄夫	内藤 澄夫	水野 薫
			雑賀 祥宣	松井 俊二
みどりの会	3人	堀内 武治	堀内 武治	中上 禮一
			榛葉 正樹	
共産党掛川市議団	2人	柴田 正美	柴田 正美	川瀬 守弘
公明党かけがわ	1人	山本 行男	山本 行男	

一般質問

Q&A

菊川水系の河川改修、維持管理費をどのように考えているか

雑賀祥宣（新政会）

Q 一級河川の権限移譲がさげばれているが、新市長としてどのような行動をとるのか。支流の下小笠川の改修が県管理になった場合、今までと同様に進められると思うか。

A 早期に河川整備計画を策定するよう要望しているところである。静岡県自体の河川事業費は平成十年度から平成二十年度の間約半分になっている状態であり、今まで同様の整備ができるとは考えられず、移譲に際し、国と同様に県の財源及び整備力の確保がなされる必要があると考えている。

下小笠川廃川敷の土地活用についての考えは

Q 廃川敷の活用について地元で検討され、早期整備促進に向けて要望書が提出されているがどのように考えているか。活用についての方向性、着手までのスケジュールはどうか。このまま長期に放置されれば環境が悪化するのではないか。考えを伺う。



下小笠川のようなす

【他の質問事項】
 南北道の改修、国内・国外における親善交流事業

A 本廃川敷の土地活用については、基本的に地域の意見に基づき廃川敷の有効活用を図っていきたく考えている。今後、市民参加による計画の策定及び整備方針の決定をしていく。市ではそれらを「新整備計画」や「財政計画」に反映させていきたい。

「掛川へ特別支援学校を」という思いは変わっていないか

高木敏男（誠和会）

Q 市長は県議会議員の時、県立袋井特別支援学校掛川分校の建設を期待すると県議会定例会で発言している。掛川方面からは約九十名の通学生があり、共生・共育を推進する観点からも、ぜひ実現させたい。市長の熱い思いは今も変わっていないか。

A 空港利用者等の動向を見つつ、駅南広場に観光案内所や多目的トイレ整備等について検討していく必要があると考えている。障がい者用パーキングの確保については、南北広場で、規制がからぬ場所等を掛川警察署と協議し検討していきたい。

【他の質問事項】
 掛川のまちづくり、新病院建設と現病院の跡地、消防署改築

Q 駅前には多目的トイレ、障がい者用の駐車場の設置を



愛野駅に設置されている障がい者用乗降所

一般質問

Q&A



富士山静岡空港のようす

陸・海・空と高度な社会資本の活用は

水野 薫 (新政会)

Q 東名・新東名、新幹線、港そして富士山静岡空港と整った社会資本をどのように活用するのか。掛川市の戦略と、有効活用には南北道の早期完成が重要である。進捗状況と見通しはどうか。

A 当初計画では本年度末において、全体の進捗率四十%を目指していたが、各路線に対する関係機関や地元関係者との協議に時間を要し、本年度末の進捗率は三十四%となる予定である。産業振興・観光振興などに繋がる社会基盤の整備は、将来の掛川市に不可欠である。厳しい財政状況であるが、

合併の最重要事業である南北道路の整備を進めていく。

当市における農業問題の現状は

Q 原材料等の高騰と百年に一度といわれる大不況の中、農業は厳しい経営をよぎなくされている。掛川市の農業の現状は。茶等品別にはどうか。

A 一度といわれる大不況の中、農業は厳しい経営をよぎなくされている。掛川市の農業の現状は。茶等品別にはどうか。又、地産地消は農業や地域の活性化に重要な役割を持つ、ネットワーク化が必要ではないか。

Q 一度といわれる大不況の中、農業は厳しい経営をよぎなくされている。掛川市の農業の現状は。茶等品別にはどうか。

A 茶農家を含む農業をとりまく情勢は高齢化の進展、担い手不足及び農産物価格の低迷等に加え、肥料・原燃油及び農業資機材の高騰等により、かつてない厳しい状況にある。そこで、観光物産センターのネットワーク化による各施設の持つ機能を発揮・推進させ、各施設の相互連携による機能発揮の相乗効果を目指し、生産者、加工業者及び販売者の縁結びを促進していくことが、掛川市の産業をより高い位置に引き上げるものと考ええる。

【他の質問事項】

市長の政治姿勢

都市計画事業を何もやらずに都市計画区域全部に課税は通用しない

柴田正美 (日本共産党)

Q 新聞紙上への市民の投書や私の税務課に対する反論に税務課から回答がない。また、「都市計画税の課税の見直し」について松井市長は見直し撤回とも取れる発言を行ったと新聞報道された。行政不信であり、公約違反では。

A 見直しも視野に入れた検討委員会を設立し、その中で十分議論をしていきたい。議論を進めた過程で、見直しが全く不合理でおかしいということであれば私は公約を撤回するという意味で新聞報道がされた。

Q 「本谷」地区の宅地に課税は疑問と言う市長の考えには同感する。「東山」地区などはお茶畑にも全部課税

A 「本谷」地区の宅地に課税は疑問と言う市長の考えには同感する。「東山」地区などはお茶畑にも全部課税

Q 「本谷」地区の宅地に課税は疑問と言う市長の考えには同感する。「東山」地区などはお茶畑にも全部課税



都市計画税が課税されている「本谷」地区のようす

【他の質問事項】

病院問題、小貫川の河川改修、市長の政治姿勢

していた。課税がおかしいという気持ちがあるなら、今までの市政が問題だということくらい言うべきではないか。

A 都市計画税は目的税である。そういう意味では、負担分任義務はないと、こういうことが主眼だということふうになっている。検討委員会で充分検討していきたい。

一般質問

Q&A

新病院用地・アクセス道路の費用負担をどうするのか

川瀬守弘（日本共産党）

Q 新病院用地及びアクセス道路の費用負担について袋井市どのように話しているのか。正式な文書・覚書はあるのか。進入路もない土地に突然の新病院、アクセス道路をどうするか。地元の心配の声をどう伝えるか。

A 私が市長に就任以降、直ちに協議を開始させていただきました。現在も細部にわたる協議を進めている。基本的には新病院を利用するすべての方々の利便性を高めていくことがアクセス計画の主旨であり、その点においては、掛川市、袋井市関係なく、一致協力して検討を進めている。費用負担の考え方については、不均衡とならないよう十分に協議をしていく。

A これまで学童保育のない小学校区へのできるだけ早い普及を目指し、「学校余裕教室の活用」や「既存施設の転用」を行い、かつ地域の力を借りながら事業を展開してきた。児童の増加が見込まれる施設の整備等は、本年度策定予定の次世代育成支援行動計画において整備目標を明らかにしていく。

【他の質問事項】

子供の入院費・通院費の無料化



学童保育のようす

Q 子どもたちと働く親たちの願いに応える学童保育を量的、質的な拡充が必要ではないか。大規模クラブへの補助打ち切り問題が目前。迅速な対応は、

Q 利用希望者の増加で定員オーバーになっている。

市長の市政への取組、選択と集中、どう考えるか

豊田勝義（誠和会）

Q 市長は十年間で百億円もの借金削減が目標といっているが、平成二十一年度予算編成の基本方針は、市長の展望と適合するところが多い。市長から「チエンジ」という声も聞かれたが相違点は。

A 「チエンジ」の最も重要な点は計画行政の執行である。新市になり総合計画は作られていたが、実施計画は作られずその都度の判断がなされてきた。今後は来年度の予算編成にあわせ、財政計画にマッチした実施計画を策定し、ローリングを繰り返し常時三年先までを見通した行財政を進めたい。

都市計画税、課税地域と使途を公平明確にできるか

Q 都市計画税は市税の中で最も大きな歳入で、財政厳しい中、この財源なくしては都市計画事業は極めて困難である。しかし都市計画事業に無縁の地への賦課や使途に不公平感がある。その是正は。

A 都市計画税の課税は新市への合併調整の中で旧掛川市の例にならうとされ、合併特例による激変緩和措置により三年間は大東区域・大須賀区域に課税せず、平成二十年度から課税した。すでに検討委員会を立ち上げており、これまでのまちづくりの方法等も参考にあらゆる方面から調査・研究をして慎重に検討していく。

【他の質問事項】

市有地処分、道路整備計画と進捗状況



掛川駅舎



若者や女性が政治に参加しやすい環境づくりは

榛葉止樹 (みどりの会)

Q 現在の掛川市議会は、少し若手議員が不足しているのではないかと考える。さらに、今期からは女性議員が一人もいなくなってしまう現状がある。議会では各世代の感性で地方自治に民意を反映させる必要があると考えるが今後の市政運営に若い世代、女性の意見をどのような方法で取り入れていくのか。また、若者や女性が政治に参加しやすい環境を整えるためにどのような施策を考えているか。

あり早急に対応が必要とされるがどう考えるか。そして、対象年齢を小学三年生から六年生まで引き上げてほしいという要望に対して、今後の対応はどうか。

A 城北小学校等、手狭な施設については近隣の代用できる施設がないかを検討する方法もある。近隣自治体よりも高学年の受け入れは進んでいるが、状況を把握し、内容の充実を図っていききたい。

【他の質問事項】
中心市街地活性化



学童保育が行われている教室

A 働きざかり世代が議員を目指せる環境づくりのためには議員の生活基盤の確立が必要で、議員報酬額等の水準が重要であるが、その妥当性は特別職報酬等審議会の判断となる。夜間・休日議会の開催等弾力的な議会運営の方法もあると思われる。

学童保育の充実

Q 今後、学童保育希望者が増加する中、市内すべての学童保育施設も手狭になると考えられる。特に城北小学校はひとつの余裕教室に四十九人の児童が在籍している状況で

厳しい財政事情の中で、新市建設計画をどう進めるか

鈴木久男 (創世会)

Q 「入を量って出を制する」財政原理の原点に立って行財政運用を図らなくてはならない時代である。三位一体の改革により、地方交付税による財政支援が大幅に削減された。財政硬直化の現象は顕著に表れている。合併特例債のメリットが無くなった今、新市建設計画(南北幹線道路(仮称)市道岩井寺高瀬線)をどう進めるのか。

A 今の課税が不合理であれば見直す必要もあるので、「都市計画税見直し庁内検討委員会」の中で検討していきたい。

【他の質問事項】
市の債務、財政調整基金、予算編成

A 三位一体の改革による影響額は平成十九年度歳入で約マイナスイナ十五億円と試算される。南北道路計画期間内は合併特例債を活用し、その後は新たな補助事業などの活用を含め、新整備計画を早期に組み立てる必要があると考えている。

都市計画税見直しの必要性は

Q 旧掛川市に準じ、南部地区に一律賦課された都市計画税に対する不満は大きい。公平公正の為、見直しの考えはあるのか。



(仮称)市道岩井寺高瀬線計画路線図

Q&A

公共交通サービスと路線バス対策の今後のあり方を伺う

山本行男（公明党かけがわ）

Q 交通弱者等でバス停まで行けない方や交通空白地域の市民のために、いま関係機関から注目されているデマンド交通システムの導入を検討したらいかがか。また、今後の地域交通のサービスと路線バスのあり方について伺う。

A 要求・需要に応じて運行ができるデマンド交通システムは、県内では静岡市・富士宮市・森町が平成二十年以降に導入している。デマンド交通も有力な選択肢なので三事例の結果や評価をもとに「公共交通あり方検討委員会」において、今後の地域交通のあり方を検討していく。

Q 女性のがん検診率向上の推進事業を伺う

A 今年度の国の補正予算の中に一定年齢の女性に対して乳がん、子宮頸がんの無料クーポン券を配付してがん検診の受診率向上を図る政策が盛り込まれているがこの事業の対応について伺う。

当市における地球温暖化防止の取組と現状は

栗原通泰（創世会）

Q 政府は温室効果ガス削減の中期目標として二〇〇五年度比で十五％減とする削減方針を打ち出したが、その目標達成には家庭からの排出を二十五％削減が必要との数値目標が示された。この目標に対する行政としての削減方針を伺う。

A 二〇〇七年度に策定した掛川市地球温暖化対策地域推進計画に基づき、基準年の二〇〇五年度から二酸化炭素の排出量を二〇一二年まで二％増に抑制する達成目標に向け、「市民」「事業者」「行政」のそれぞれが温暖化防止活動を協働して、七つの主要施策を定め、推進している。今後は、国の中期目標と同じ、十五％程度の削減をするべく、実効性の高い対策を講じていくことが必要である。

Q 「新しい公共」と「市民自治活動基本条例」の目的は

A 条例の制定は今以上地域携が求められる。それには「人・物・金」の三要素がかみ合って実現されるものと思うが、市長の考えを伺う。



掛川市内を行き来する市内循環バス



太陽光発電のようす

【他の質問事項】 窓口徴収業務

※デマンド交通システムとは
地元のタクシー会社や自治体の小型乗合自動車で、利用者を自宅などから目的地まで送迎するという新しい交通システムである。

乳がん検診は四十才から六十才まで、子宮頸がん検診は二十才から四十才までのいずれも五才間隔の節目年齢の対象者に、八月から検診手帳と無料クーポン券を送付する。がん検診の受診率の向上やがんの早期発見の機会として、検診の周知と正しい健康意識の普及啓発を行っていく。

【他の質問事項】 地産地消への政策充実策

多様な地域課題に対して、地域住民が主体となって行政と協働して取り組むためには、地域のことはある程度地域に任せようという、市から地域への「地方分権」つまり「都市内分権」が必要である。これは「地区」の組織充実と地区活動の活性化が大きな鍵になる。住民自治組織の充実、都市内分権、市からの人的物的支援のあり方などは、新しい条例の検討の中でも課題となるので、さまざまな意見を聞きながら検討していく。

市内の現地を視察

各常任委員会において、
5月28日から6月2日にかけて、所管事務事項の調査として、
主要道路や新病院建設予定地など、市内の現地視察を実施しました。
各委員会より現地視察の内容を報告します。



総務委員会

◆所管事項

企画総務部、消防本部、出納局、監査委員、選挙管理委員、公平委員会、水道部、他の常任委員会に属さない事項

【視察箇所】

- ・竹の丸(城内)
- ・消防署西分署(富部)
- ・原里浄水場(桑地)
- ・下小笠川廃川敷整備状況(東大坂)
- ・海岸防災林再生植樹地(千浜)
- ・大東温泉シートピア(国浜)
- ・サンサンファーム(大淵)
- ・大須賀支所・中央公民館(西大淵)
- ・新病院建設予定地(下俣・長谷)

新しいメンバーでの初の現地視察であったが、本市の抱える多くの課題を改めて感じた。逼迫する財政の中で、山積する財政需要に対応していかなければならない。そんな中、市民・地元企業・行政が協働して防災林の再生を目指す現場を見た。一筋の光明を見た思いである。協働によるまちづくりを一刻も早く推進すべきことを、改めて実感した。



新病院建設予定地



西分署

経済建設委員会

◆所管事項

経済建設部、農業委員会

【視察箇所】

- ・宮脇第一土地区画整理事業（宮脇）
- ・粟ヶ岳の茶文字（東山）
- ・道の駅掛川（東山口）
- ・農道伊達方公文名線2期地区（東山口）
- ・新エコポリス2期工業団地（東山口）
- ・22世紀の丘公園（満水）
- ・市営住宅和田団地建替事業（上内田）
- ・南北道路県道掛川大東大須賀線（上内田）
- ・農道高天神2期地区（三井）
- ・下小笠川廃川敷（大坂）
- ・南北道路県道相良大須賀線（中）
- ・南北道路市道海洋公園線（千浜）
- ・南北道路市道北村線（千浜）
- ・大東温泉シートピア（国浜）
- ・松食い虫の被害状況（国安・千浜）
- ・海岸の浸食状況（浜野）
- ・大須賀浄化センター（沖之須）
- ・洋望台土地区画整理事業（洋望台）
- ・南北道路県道大須賀掛川停車場線（西大谷）
- ・仮称掛川西環状線（和田岡・原谷）
- ・市営住宅原谷第2団地3期棟（原谷）
- ・沿道土地区画整理事業（二瀬川）
- ・竹の丸修復工事（城内）
- ・都市計画道路葛川下俣線（道神町）
- ・再開発事業（駅前東街区）



竹の丸



粟ヶ岳の茶文字

掛川市合併後の大きな事業である南北道路はかなり進捗したものの、まだまだ時間が掛かる見込みで、予算の関係はあるものの早期の完成が望まれるところである。その外の道路関係事業も地域にとって必要なものばかりで優先順位に従い確実に事業進行を行う必要を強く感じる。南部の松食い虫被害や海岸浸食など目を覆うものがあり有効な対策が必要である。

文教厚生委員会

◆所管事項

福祉生活部、教育委員会、市立病院

【視察箇所】

- ・中央小学校（下俣）
- ・市立総合病院（杉谷南）
- ・保全センター跡地（浜野）
- ・大浜中学校（大坂）
- ・大須賀給食センター（西大淵）
- ・清水邸（西大淵）
- ・総合福祉センター（掛川）
- ・掛川医療センター急患診療室（御所原）
- ・第一小学校児童保育所（掛川）

今年度より八名の委員会となり、委員の責任の重さを実感している。今回は学校、病院、福祉、医療と幅広く九箇所の視察を行った。今掛川市の一番の課題は病院問題とその跡地にある。そして将来を担う子供達の学校教育にあると実感した。



市立総合病院院内保育園



徳育保健センター

特別委員会を設置しました

特定な事件の審査や調査を行うために設置される委員会を特別委員会といい、それぞれのテーマに基づき、中長期的施策の検討や提言を行います。

今年度は、「新病院建設・地域医療対策特別委員会」「財政問題特別委員会」「教育問題・子育て支援対策特別委員会」「議会だより編集特別委員会」の四つの特別委員会を設置しました。ここでは、各委員会の調査内容を紹介いたします。



(○委員長、○副委員長)

新病院建設・地域医療対策特別委員会

新病院を期限内に建設すべく一部事務組合設立から負担割合やアクセス計画等の課題、病院跡地利用や地域医療のあり方について調査・研究を行っていきます。

【委員24名(全議員)】

- 鳥井 昌彦 ○高木 敏男

財政問題特別委員会

本市の厳しい財政状況等を踏まえ、計画的な抑制施策や自主財源などについて調査・研究を行っていきます。

【委員12名】

- 雑賀 祥宣 ○豊田 勝義
- ・佐藤 博俊 ・中上 禮一 ・兼原 通泰 ・柴田 正美
- ・水野 薫 ・山崎 恵司 ・鈴木 正治 ・鳥井 昌彦
- ・内藤 澄夫 ・加藤 一司

教育問題・子育て支援対策特別委員会

教育の充実を図るべく当面の諸課題、特別支援教育等や子育て支援策等の調査・研究を行っていきます。

【委員12名】

- 松井 俊二 ○高木 敏男 ・草賀 章吉 ・山崎 恒男
- ・榛葉 正樹 ・川瀬 守弘 ・鈴木 久男 ・山本 行男
- ・堀内 武治 ・大庭 博雄 ・大石與志登 ・竹嶋 善彦

議会だより編集特別委員会

市民への情報提供として「かけがわ市議会だより」の編集・発行作業を行っていきます。

【委員8名】

- 水野 薫 ○兼原 通泰 ・中上 禮一 ・柴田 正美
- ・山本 行男 ・山崎 恵司 ・鈴木 正治 ・大庭 博雄

議会日誌

【5月】

- 20日 ●市議会全員協議会
●議会運営委員会
- 22日 ●議会運営委員会
●議員懇談会
- 26日 ●総務委員会協議会
●経済建設委員会協議会
●文教厚生委員会協議会
- 27日 ●全国市議会議長会定期総会(東京)
- 28日 ●経済建設委員会現地視察
- 29日 ●掛川市議会第3回(5月)臨時会
●新病院建設・地域医療対策特別委員会
●議会運営委員会

【6月】

- 1日 ●静岡県地方議会議長連絡協議会定期総会(静岡市)
●文教厚生委員会現地視察
- 2日 ●総務委員会現地視察
- 4日 ●新病院建設・地域医療対策特別委員会
- 9日 ●議会運営委員会
●議員懇談会
●議会だより編集特別委員会
- 16日～7月7日
●掛川市議会第4回(6月)定例会
- 19日 ●議会だより編集特別委員会
- 24日 ●議会運営委員会
●議員懇談会
- 30日 ●議会運営委員会

【7月】

- 2日 ●議会だより編集特別委員会
- 7日 ●議会運営委員会
●市議会全員協議会
- 8日 ●財政問題特別委員会
- 9日 ●教育問題・子育て支援対策特別委員会
- 14日 ●議会だより編集特別委員会



9月定例会の予定

- 2日 本会議 (議案の提案説明)
- 10日 本会議 (一般質問)
- 11日 本会議 (一般質問)
- 14日 本会議 (議案質疑、委員会付託)・常任委員会
- 16日 一般会計・特別会計決算特別委員会
- 17日 一般会計・特別会計決算特別委員会
- 30日 本会議 (委員長報告、質疑、討論、採決)

傍聴席

六月二十五日の市議会、一般質問を傍聴した。議事の進め方は相変わらずの一括方式で通り一遍。更に、「通告に従って…」で始まる質問も答弁も、内容よりも形式を重んじるような感があり、失望した。活発な意見が展開される、一問一答方式の導入を考えるのも一つの方法ではないだろうか。

一般質問は、日常生活にかかわ

編集後記

「海と山と街道がつながり、夢・未来を創るまち」掛川市も五年目を迎え、新市長と新議員が決まり、議会だより編集特別委員会も新体制でスタートいたしました。時代が大きく変化しようとしている中、掛川市も多くの課題が山積をしております。議会だよりの役割である正しい情報を早く提供し、市民と議会を結ぶ架け橋の役割を果たすべく、八名心を一にしております。ご協力ご指導をお願いします。

議会だより編集特別委員会
委員長 水野 薫



◆議会だより編集委員 (左から)
柴田正美委員/鈴木正治委員/山崎恵司委員/水野 薫委員長
兼原通泰副委員長/大庭博雄委員/中上禮一委員/山本行男委員

る政策課題についての議論を、市民が直接聞ける貴重な機会である。議論のあり方としては、単に市政に対する要望にとどまらず、自らの政治理念に基づいた、内容のある質疑、またそれに対する応答であってほしいと考えている。

二〇〇六年、地方の自立に向けて、地方自治法が改正された。首長の追認機関の印象が強かった議会も、これによって権限が拡大されるようになり、地域の実情にあわ

せたまちづくりや、行政サービスの提供など、各自治体独自の取り組みが可能となってきた。

このように、地方議会の機能も、時代の変革に伴って変化してきたにもかかわらず、実際には議員の活動・仕事ぶりが市民に伝わってこないのは残念である。地域の生活に直接結びつくような、議会の活性化の工夫をお願いしたい。

大須賀地区 岩崎はるみ